

博士學位論文

(内容の要旨及び審査の結果の要旨)

氏名	Chadley Earle-Drennen James (チャドレー アールドレネン ジェームズ)	
学位の種類	博士(被害者学)	
学位記番号	甲第1号	
学位授与年月日	2015年9月17日	
学位授与の要件	常磐大学学位規程第3条第2項該当	
論文題目	Consequences of Carjacking in South Africa: An Empirical Study on its Victims	
論文審査委員会	委員長 長井 進	本学大学院被害者学研究科教授
	委員 諸澤 英道	本学大学院被害者学研究科教授
	委員 Gerd Kirchhoff	本学大学院被害者学研究科教授
	委員 小柳 武	本学大学院被害者学研究科教授
	委員 Tod Tollefson	本学国際被害者学研究所准教授

上記の申請者は、常磐大学学位規程第6条に示された条件を満たしており、学位論文審査を今回、願い出た。学位規程第4条に基づいて、学位論文審査委員会を設置すべく被害者学研究科委員会で協議された結果、上記5名の教員が選出された。

ちなみに、論文審査等の手続に関する常磐大学学位規程第10条、及び最終試験および学力の確認に関する第11条に基づいて、審査委員会各委員にそれらを行う必要性の有無等に関して意見を聴取した結果、全員がその必要性を認めないということで、見解が一致した。

上記の各委員は事前に論文の内覧を済ませ、博士(被害者学)学位論文審査票を口述試験の前に同審査委員長に提出した上で、本申請者の博士學位論文審査が、2015年6月10日(水)16:20~17:50の間、常磐大学見和キャンパスQ404教室で実施された。論文審査はすべて英語で実施された。

最初に、申請者の学位論文を要約すれば、以下の通りになる。

すなわち、南アフリカ共和国におけるカージャッキング及びその被害者に関する実態を

調査研究したものである。同国においては、年間9,000件を超えるカージャッキングが認知されており、深刻な状況を呈している。この被害状況に関する実態を調査するために、保険会社職員及び被害者等を調査し、無作為抽出を試みたものの十分な協力が得られず、雪だるま方式 (snowball sampling method) によるデータ収集を行った。この雪だるま方式の調査とは、最初の協力者から調査に協力してくれそうな他の被害者を紹介してもらい、研究協力者を確保しつつ、研究協力者を漸次拡大する方法を言う。この方法によって、最終的に280名の協力者を対象に、調査が実施された。雪だるま方式は無作為抽出法と比較した場合、若干の危惧は残るが、被害の特異性を考慮した場合、使用せざるを得ない方式であると考えられる。本論文は、カージャッキングの被害者の実態を解明するために、①人口統計上の視点、②事件内容による視点、③身体的被害、④精神的被害、⑤経済的被害、及び⑥行動・日常生活の変化という6つのカテゴリーに基づいて、30の質問項目が作成され、それぞれについて分析が行われている。

本論文の基本的理論的枠として、メンターであるKirchhoff教授の被害者理論が採用されている。その基本は、既存の犯罪学理論に依拠するのではなく、被害者により焦点を当て、被害者自身に侵入する被害状況を分析することであり、本論文でも同一の方法が採られている。

分析は的確であり、カージャッキングの被害状況が多角的に分析されており、優れた論文であると認められる。

各審査委員から事実、調査の過程、本文中の文言や表記、理論等々に関する多様な質問が次々と発せられたが、ほぼすべてに関して申請者は的確に答えていた。ただし、今回の研究ではできなかったこととして、他の強盗の被害者と比較していればカージャッキングの被害者特性を一層明確にすることができるのに、比較していない、との意見も出された。これは、申請者が今後取り組むべき課題の一部と考えられる。

なお、審査委員のうち3名より、微修正を行う必要があることが指摘された。その具体的な内容には、本文中の概念の説明不足、一部の表に含まれる数値及び記号等の誤記ないし未記入、入力上のミスタイピング等が含まれた。修正すべき内容は審査の最後に口頭で伝えられた。

申請者はその後、与えられた期日までに論文の修正を行い、審査委員長が修正箇所の手紙を確認した。その結果、修正すべき箇所は、修正前と修正後を含めた一覧にまとめられ、また論文にも間違いなく修正されていたことが確認された。

論文の個別評価はA3名、B2名と別れた。それらの評価に基づいて、審査委員会全体としては申請者にAを与えることとなったので、ここに報告する次第である。

ちなみに、本申請者の博士学位論文審査の開催に先立ち、2015年5月20日付で世界被害者学会（World Society of Victimology）より、2015年ベンジャミン・メンデルゾーン若手被害者学者賞（Beniamin Mendelsohn Young Victimologist Award for 2015）を受賞していることを付記しておく。